

スポーツ・インテグリティの確保に向けた取組について

1 スポーツ・インテグリティとは

スポーツ・インテグリティ (Sport Integrity) とは、スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性を指しているが、これらを高めるとともに、暴力・ハラスメントや違法賭博、ドーピング等からアスリートを守る必要性が高まっている。(出典：独立行政法人日本スポーツ振興センターHP)

平成30年5月に発生した日大アメリカンフットボール部の危険タックル問題を契機に、平成30年6月、スポーツ庁長官は「我が国のスポーツ・インテグリティの確保のために」というメッセージを发出し、各競技団体や大学等の関係者等に対し、以下について真摯に取り組むよう求めた。

- (1) アスリートや指導者に対する教育・研修の強化
- (2) アスリートの相談体制の充実、利活用の促進
- (3) 問題事案に係る公正・迅速な調査と説明責任の履行
- (4) 運動部活動の安全確保に向けた大学の取組の充実

2 本県におけるスポーツ・インテグリティ確保に向けた主な取組 (令和2年度)

(1) コンプライアンス研修会の開催

各競技団体の指導者、地域の指導者等を対象として、健全な組織運営の確立に向けた、選手との向き合い方等について研修

ア いわて競技力向上事業「スポーツ・インテグリティ推進事業」

No.	実施日	団体名 (対象者)	参加人数
1	9月19日(日)	岩手県スケート連盟 (競技団体指導者)	12名
2	11月22日(日)	岩手陸上競技協会 (競技団体指導者)	42名
3	2月21日(日)	岩手県バレーボール協会 (競技団体指導者)	—

イ スポーツ医・科学サポート事業「指導者研修会」

No.	実施日	団体名 (対象者)	参加人数
1	10月10日(土)	一関市体育協会 (スポーツ少年団指導者)	39名
2	10月29日(木)	八幡平市体育協会 (指導者・保護者・選手)	22名
3	12月10日(木)	八幡平市体育協会 (スポーツ少年団指導者)	7名
4	2月5日(金)	県高体連ボクシング専門部 (高校指導者)	—
5	2月12日(金)	県高体連陸上競技専門部 (高校指導者)	—
6	2月13日(土)	雫石町体育協会 (スポーツ少年団指導者)	—

(2) 選手・保護者等からの相談窓口の設置

スポーツにおける暴力行為等に関する相談に対応するため、県体育協会内に相談窓口を設置するとともに、業務の担当職員が、日本スポーツ協会等主催の研修会に参加し、相談対応のスキルを習得

(3) 競技団体のインテグリティ推進の取組支援

各競技団体指導者の日本スポーツ協会等主催の研修会への参加経費を支援

(4) 競技団体等への周知

ア 競技団体ミーティングの開催

- (ア) 日時 令和2年8月21日(金)～9月18日(金)
- (イ) 場所 (公財)岩手県体育協会会館
- (ウ) 対象 県内38競技団体の選手強化担当者・国体監督等 約170名
- (エ) 内容 選手強化に向けた競技毎のミーティングにおいて、スポーツ・インテグリティの確保に向けた競技団体独自の研修会の開催や、スポーツ少年団も含めた加盟チーム等への周知を依頼

イ 県内競技団体関係者向けの研修会の開催

- (ア) 日時 令和2年9月25日(金)
- (イ) 場所 アイーナ804会議室
- (ウ) 対象 競技団体関係者、県体育協会認定トップコーチ等 約55名
- (エ) 内容 競技団体関係者が一堂に会する研修会において、中央から招いた講師による講義を開催し、適切な組織運営やコンプライアンスの徹底を促進

ウ 県内指導者への会報を通じた周知

- (ア) 方法 岩手県スポーツ指導者協議会会報による周知
- (イ) 時期 令和2年12月10日(木) 発行
- (ウ) 対象 県内(公財)日本スポーツ協会公認スポーツ指導者 約2,000名
※ コーチ等競技別指導者、スポーツドクター、クラブマネージャー等
- (エ) 内容 競技別の指導者、医療関係者、総合型スポーツクラブ関係者にスポーツ・インテグリティ確保の意識を醸成

スポーツ・インテグリティ研修等の実施体系

指導者等の分類	研修等の分類		競技団体等個別研修会	会報	資格取得	資格更新
	競技団体個別面談	競技団体等全体研修会				
国体監督・コーチ	○	○	○	○	○	○
競技団体事務局	○	○	○	—	—	—
競技別指導者	—	—	○	○	○	○
特別強化指定校指導者	—	—	○	—	—	—
スポーツ少年団指導者	—	—	△	—	○	—
障がい者スポーツ指導者	—	—	△	—	○	—
学校部活動の指導者	—	—	△	—	—	—

※ ○：研修を実施しているもの △：団体から要請があった際に実施するもの